第５回　市営バス事業あり方検討会議（会議録）

日　時：平成２７年８月３日（月）１６：１５～１７：００
場　所：特別会議室Ａ
議　事：１　報告書のとりまとめ

〔凡例〕　○印：委員、専門アドバイザー　　□印：事務局

＜ＩＣカード相互利用化対応の導入タイプについて＞

○ＩＣカード相互利用化対応については、どのパターンを想定しているのか。
□収支見込の試算においては、一つの仮定として、ランニングコストが最も高いと思われる、隣接民間バス事業者のカードシステムを導入するパターンで試算している。片側利用のパターンを導入すれば、収支見込は改善する可能性がある。
○ＩＣカード相互利用化というと、今まで使われているＩＣカードも他のＩＣカードも、ともに相互に使えるようになるイメージになり、文言の整理が必要ではないか。

＜ＩＣカード相互利用化対応の実施時期について＞

○ＩＣカード相互利用型導入を、平成３２年度に導入すると想定しているが、平成２９年度や平成３０年度でシミュレーションした場合は、単年度実質資金収支はどうなるのか。導入時期は早めるべきではないのか。
○導入年度にはバスの購入を行わないとあるが、バスの購入計画とも関連しているのか。
□実施時期については、導入資金の問題もあるが、導入するシステムのパターンについてのアンケート実施や、システムの制度設計等の事前準備に相応の時間が必要であることから、収支計画では 32 年度という設定にしたが、これはあくまで仮定であり、前倒しに出来るのであれば前倒したい。導入年度におけるバスの購入は、資金状況の関係で、前提としては購入しない。導入を早めた場合の資金収支のシミュレーションは、別途やってみる。
○自己資金１億円が必要という前提であるため、資金収支が悪くなるという試算になるが、企業債というやり方もあるのではないか。

＜利用促進策について＞

○利用者減少率が改善されるという想定をしているが、ＩＣカード相互利用化対応により、将来は収益がプラスになるのか。

□利用者減少率が改善されるのは、ＩＣカード相互利用化対応だけではなく、地域と密着した利用促進の取り組みなど課題への対応策を講じた総合的な結果によるものである。

＜報告書の最終的な取りまとめ等について＞

○最終的な文言の修正等については議長へ一任する。